

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4490400068
法人名	社会福祉法人 翠明会
事業所名	グループホーム敬天
訪問調査日	平成21年3月31日
評価確定日	平成21年5月27日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4490400068
法人名	社会福祉法人 翠明会
事業所名	グループホーム敬天
所在地	日田市天瀬町女子畑234番地1 (電話)0973-57-3455

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年5月27日

## 【情報提供票より】(平成21年3月16日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人	非常勤 0人 常勤換算 9人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

## (4)利用者の概要(平成21年3月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	日田リハビリテーション病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1	周囲は畑や季節の樹木など自然に囲まれている。地元の木材を使った建物は大きな窓から自然光が差し込み、暖かくゆとりがある。利用者の安全や生活のしやすさに配慮した工夫が随所に見られる建物である。
2	職員はベテランぞろいでチームワークが良く、開設1年とは感じられない。落ち着きがあり、利用者一人ひとりに対応したケアを行っている。
3	積極的に地域との関わりをもち、地域、家族と連携が良くとれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回は初の受審である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価票をコピーして職員全員に配布し、各自で記入し、計画作成担当者がとりまとめた。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族が参加しやすいよう、休日に開催するなどの工夫をしている。また、参加者の意見により、毎月の請求書発送時に個人別の便りを同封したり、避難訓練などの情報を家族や地域の方へ知らせるなどしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会の開催やアンケートの実施、運営推進会議の参加などで意見を伺い、意見や苦情は職員会議で改善方法を話し合い、結果を報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校や地区の運動会・文化祭・お供日への参加、米・野菜・味噌などをできるだけ地域で購入するなど、積極的に関係作りをしている。また、民生委員・児童委員が花を持って来てくれるなど地域の方も気軽に訪問している。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員でアイデアを出し「家族・地域と共にその人らしい暮らしをつくる」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をわかりやすい場所に掲示し、ミーティングでも確認しながら全職員で共有している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や地区の運動会・文化祭・お供日への参加、米・野菜・味噌などをできるだけ地域で購入するなど積極的に関係作りをしている。また、民生委員・児童委員が花を持って来てくれるなど、地域の方も気軽に訪問している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価であるが、評価票をコピーして職員全員に配布し、各自で記入して、計画作成担当者がとりまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族が参加しやすいよう、休日に開催するなどの工夫をしている。また、参加者の意見により毎月の請求書発送時に個人別の便りを同封したり、避難訓練などの情報を家族や地域の方へ知らせるなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関する相談や、市からの要請で実習生の受け入れを行ったり、認知症理解の普及のためのキャラバンメイトの協力を行ったりしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、金銭管理と全体の情報や行事の案内を行い、隔月に個人の近況を送付しており、必要があれば随時電話で報告を行っている。また、家族は月に1回以上訪問しているのでその際に直接話をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、アンケートの実施、運営推進会議の参加などで意見を伺い、意見や苦情は職員会議で改善方法を話し合い、結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年目であるが、職員はベテランを中心にそろえている。4月に初めての人事異動があるが、1ヶ月前から新しい職員を配置している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には本やVTRを利用して認知症への理解を深めてもらっている。内部研修は2ヶ月に1回程度、併設の特別養護老人ホームと合同で行っている。外部研修も積極的に参加しており、毎月のミーティング時に報告を行っている。また、専門誌や関連の新聞記事などの閲覧もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会のグループホーム専門委員に参加しており、毎月ブロックで勉強会を開催している。また、職員の交換研修も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規開設のため事前に利用者、家族ともに来てもらい、居室のレイアウトを一緒に考え、安心できる居室を作りながらホームに馴染めるようにしている。また、地域の顔なじみの美容師にきてもらうなどの工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の経験などを活かして、料理や歌、生活の知恵など教えてもらいながら共に生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に「焦点情報シート」を用い、思いや意向の把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見をもとに全職員で介護計画書の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン会議で3ヶ月毎に全職員で見直しを行い、医師、法人のスーパーアドバイザー、家族の意見も得て話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の病院への通院介助、地元美容院の利用など各自の希望に添った支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の理事長が主治医であるが、希望や必要に応じてかかりつけ医や専門医と連携を図りつつ対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての家族への説明や職員との共有はできしており、家族や主治医と連携しながら看取りを行った。その後、職員へアンケートを行い、意見や問題点の聞き取りをしている。新しく「看取り介護の同意書」を作成し、これから書面での取り交わしを家族と行っていく。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本やVTR、新聞の回覧などでプライバシーについての勉強や意識啓発を行っている。また、個人ファイルは事務所で記入し、事務所不在時は施錠するなど取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはあるが、朝の起床時間や夜の過ごし方など、各自のペースにあわせて思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で育てた野菜を使ったり、地域の店で材料を仕入れ、地産地消している。食事の準備、下ごしらえ、調理、片付けなど職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴を行い、出来る限り個人の希望に添って湯温や時間など配慮している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの仕事や経験を活かして、調理、魚さばき、しめ縄作り、畑仕事、山菜採り、歌、踊りなど行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広いので、天気の良い日はできる限り散歩を行っている。また、週3回程度の食事の買出し時に2人程、一緒に行くようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、各居室の窓など施錠していない。徘徊が多い1名の利用者に対してのみ、家族と話し合いの上、掃きだしの窓に15cm程まで開くストッパーをかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での避難訓練、夜間呼集訓練を実施している。	○	食料などの備蓄の確保が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの栄養士が立てた献立を参考にして、利用者の希望や畑で採れた旬の野菜などを取り入れて調理している。食事は1600kcalを目安にして、各自に合わせて調理の形態を工夫している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地元木材をふんだんに使い、明るくゆとりがあり温かみのある作りとなっている。また、職員の意見を取り入れて、廊下の手すりや洗面台の高さをあわせたり、トイレ内の手洗いに片手で切りやすいペーパーホルダーを設置するなど利用者が安全で使いやすいような工夫をこらしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の照明や窓は障子風で落ち着きのある作りとなっている。入居時に家族と一緒にレイアウトを考え、仏壇や使い慣れた家具などが配置されている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム敬天
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	日田市天瀬町女子畑234番地のI
記入者名 (管理者)	奈須 武資
記入日	平成21年3月14日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の思いをしっかり受け止め、その人らしく、またホームの一員として生活者として生きることを支える理念を掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、ミーティングなどで確認している。	○ 常に確認し合いながら、より利用者に沿った介護が出来るよう努力したい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、利用者ご本人の思いと、出来ることはやっていただく基本理念はお話ししているが言葉としてはお伝えしていない。 出来ていない。	○ 家族会や運営推進会議を通して浸透していきたい。
2. 地域との支え合い			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所とは、出来る限り交流に努めている。 米、野菜、味噌などの地元農家からの購入を通して気軽に立ち寄ってもらえるようしている。 近所から山菜やお花などの差し入れも頂いている。 地元婦人会の店が近くにあり、利用者顔なじみになっている。	○ 畑仕事を通して、近所の人と交流する。 近くの農家で手に入る作物は分けていただく。 お接待に参加する。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校、地区の運動会、文化祭、お供日などに参加している。 又施設の夏祭りには地域の人々がたくさん参加して下さっている。	○ 運動会、文化祭、夏祭りへのお互いの交流参加を拡大していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の家族についての問い合わせや相談があれば応じて、関連機関の紹介や話を聴いたりしている。計画作成担当者がキャラバンメイトの研修を終えていて、市内の5グループホームと共に認知症の正しい理解について協力することを検討している。	○	他のグループホームと協力しながら、認知症の理解の普及に努める。 地域の独り暮らしの方々をお茶や昼食に招待する。 (民生委員の方と検討中)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての外部評価を受けるに当たり、全職員で、自己評価に取り組んでいる。 これを通して共通理解をはかり、今後の改善に取り組みたい。	○	外部評価で指導いただいた分、自己評価で足りないと感じた部分について、積極的に改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やヒヤリハットについて報告し、地域や行政・家族の助言指導を頂いている。 その結果として、請求書発送時に個人別の月便りを発送したり、又避難訓練などの情報をご家族に知らせることで安心を得たりしている。改善点については次回会議で報告している。	○	運営推進会議を回ごとにテーマをもって取り組み、意見を頂き処遇の改善につながる様にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開業1年目であり、分からないことがある度、相談し助言を得ている。 又市からの要請で、市の実習生を運営推進会議に同席させたり、認知症理解の普及の一端を担ったりしている。	○	外部の情報などを提供して頂く。 こちらで協力出来ることがあれば協力する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	安心サポート主催の公証人による権利擁護に関する学習会が、隔月開催されている。 積極的に参加し、必要な時支援できるよう準備している。	○	職員研修会などで理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修会で講習を実施。 又、虐待が身体的な者だけでなく、言葉使いやネグレクトもあることをミーティング等で都度話し合っている。	○	新聞、雑誌などから情報を経て、グループホームのみでなく、地域でも虐待の防止に役立つことがあれば協力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を読み上げ、特に重要な点については、言葉を足しご理解いただく様になっている。疑問点については丁寧に説明し納得いただいた上で契約していただいている。</p>	○	<p>今後も利用者、家族と互いに信頼関係の結べる契約時の説明を行っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談員制度を設けている。 運営推進会議に本人・家族の出席を行い、意見を伺っている。行事や外出など利用者の意見を聞いて決める。 不満・苦情の祭は即刻ミーティングを開き、改善に努めている。</p>	○	<p>職員が気づかず、利用者が独りで悩まれている時がある。利用者の行動や表情からも心理状態をキャッチし、素早い対応が必要である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月している物 金銭管理、全体の情報、行事など 隔月 個人の近況報告たより(健康・生活・写真) 随時 健康状態、心理状態について電話連絡</p>	○	<p>今後もさらにご家族が安心できるよう、敬天便り、近況報告を発行する。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に法人の苦情受け付け、苦情相談員制度を記載し入居の際に説明している。又家族会も機能している。行事などについてはアンケートでお尋ねしている。意見や不満が出たら、苦情には謝罪をし、職員会議で改善方法を話し合い、結果をご家族に報告している。</p>	○	<p>家族会が、事業所主体で開かれているので、今後、家族会独自の忌憚のない意見集約をお願いし、運営に反映していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングで、職員の意見や、提案を受け入れている。</p>	○	<p>発案する職員が固定しているので、全員が発言できるように、又発言できる力を持てるようにしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>看取り介護時、待機看護師との連絡の徹底。 家族状況をみての通院介助、家族相談など計画作成担当者が勤務調整をし対応している。</p>	○	<p>新規入居者などが、夜間の入浴を希望された場合など、昼間入浴になれるまでの職員の勤務時間調整も必要となる。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在4月に1名の転出を予定しているので、交代職員を3月より配置して、利用者への影響を軽減するようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員資質の向上は重要なことである。研修委員など定め、内外研修は積極的に取り組んでいる。認知症専門の学習会や、人権について意識化と指導を行っている。新聞や専門誌の記事を回覧する。	○ ○研修委員による法人内・施設内の研修会開催 ○行政や民間主催の研修会への職員の派遣
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム専門委員会久大ブロックの活動として管理者・計画作成担当が毎月情報交換勉強会を開いている。今年度職員の交流研修を行い、本施設から3名が研修を受け、4名の研修生を受け入れた。受け入れ、出向き研修共に大きな気づきがあり、とても有意義であった。	○ 久大ブロック内の全職員を対象に認知症を知るためのビデオや座学による研修会を予定している。各施設で内部調整をはかり、早期に実現させたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員研修旅行や職員親睦会費用の一部を支給し、職員の親睦とストレスの解消を図る。	○ 職員の休憩室が無く、休憩時間、利用者と一緒に和室で休んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格手当がある。 賞与で勤務状況手当がある。 各種共済保険などへの加入	○ 環境の変化は利用者には大きな影響を及ぼすので、十分配慮したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前にお会いして、話を聴く機会を持ったが、開所で同時に8名の入所であり、十分な事前対応ではなかった。	○ 入居前提でなく、困りごとの相談から、信頼していただく様な支援を考えていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時点では、時間を十分にとって不安や困りごとを聴き、グループホームで出来る対応についてお話する。	○ 相談があれば、十分に対応していく。 また、家族会などの紹介もする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域で生活する方法について、デイサービスや、小規模多機能の制度について説明し、住居に近い施設等の情報を提供する。 また、離れて暮らす家族からの相談には近所の方と良い関係を築く事により在宅で支援できる期間が延ばせるなどの助言をしている。	○	地域のサービスについて知り、相談者へ適切な対応ができるよう備える。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規開所だったので、家族と共に事前に来ていただき、お部屋をみて、居室を決め、居室からの眺めになじんでいただいた。又入居開始前に全員の荷物の搬入と部屋のレイアウトを家族にして頂き、なじみの環境を作った上で入居して頂いた。入所後に他の人の引っ越しの荷物が入ることもなく落ち着かない雰囲気を避ける事が出来た。	○	これから、入居者の移動がある時は、慣らしのための外泊など考えていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	とんちの良い人、昔の歌を知っている人、言葉使いの丁寧な人、調理の得意な人、洗濯干しの達人、etc.笑いながら、教えられながら、時には泣きながら過ごしています。外部の人から、「誰が職員か分からん」と言われたのは最高のほめ言葉だと感じています。	○	自然に恵まれているので、自然とのふれあいを通してさらに暖かい人間関係を築きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お祭りの時の外出支援に家族の方の協力をお願いしている。 ご家族が自分の親だけでなく、他の入居者ともなじみになっている。 一族でお弁当をもってこれ、和室で昼寝をして帰られたり、ここが親のいる家(実家)としての役割を果たしている部分もある。	○	入居したことで、家族の結びつきが薄くならないように、常に情報を発信し続け、家族の知恵と力を借りて、グループホームを運営していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の誕生祝いを家族と共に実施し、喜んで頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地域の老人会が隔月訪問して下さっている(2名) 出身地域の村祭りにみんなで出かける。 ひとり暮らしをしていた自宅への日帰り帰宅支援。 なじみの美容院・歯医者への通院	○	ご本人の出身地を故郷訪問し、馴染みの人に合わせてあげたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良し関係、敵対関係など把握し、食事の席など考慮している。 時々の仲良しだけで過ごせる空間を作っている。	○	トラブルの回避(みまもり) 共通点を見つけての橋渡し

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	看取りの終わった家族に対して、季節の挨拶を出している。	○	今後、ケースがあれば考えていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いに沿うよう努めているが、十分とはいえない。	○	利用者の本当の思いをしっかりと受け止めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の情報提供表や、家族の話や本人とのふれあいの中で生活歴の把握に努めている。 鍛冶屋をされていた方に日田市文化課からの訪問調査があり、とても良い話が聞けた。	○	家族、本人、お知り合い等を通して、これからも積極的にこれまでの暮らしの把握に努め、支援に活かしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ワーカー日誌や個別ケア記録、朝・夕の申し送りで状態を共有し、体調・心身状態に合わせ、	○	記録様式の改善、見直しを考えてる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは要望や、職員の情報を基に計画作成担当者が作成している。	○	全員のケース検討会を徹底して、より開かれた介護計画を作る。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化があれば、緊急ミーティングを開き、医師、家族、S.Aの助言も得て新たな対応をしている。	○	定期的な介護計画の見直しを行うと共に、利用者の状態の変化に即応した介護計画変更を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・ワーカー日誌に記入している。 状況の変化には即時対応策を考え、申し送りノートで介護計画の見直しに代えている。	○	状況の変化が、より全員に把握できるような記録の改善。 出勤時、前夜までの記録事項の共有の徹底
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる華道教室への参加。 地域の小学校との文化交流を行っている。	○	いろいろなネットワークを通して、ボランティアや地域の人とのふれあう機会を持ち、利用者の要望に応えられるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	していない。	○	活用できるサービスを探し、必要があれば利用支援する。」
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	自宅復帰を望む利用者について、地域包括センターに相談している。	○	在宅の環境作り等地域包括支援センターの協力をお願いしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望によりかかりつけ医の受診をしている。 ご家族が通院介助されることもあるが、要請があれば職員による通院支援をしている。	○	家族と協力して、かかりつけ医の受診を支援する。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	上野公園病院の長野先生に相談し、必要な方の受診を支援している。	○	利用者の状況に応じて、その都度相談する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日バイタルチェックや健康観察を行い、併設の特別養護老人ホームの看護職に相談し必要に応じ支援を受けている。	○	特養の看護師に毎日の健康報告をする。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院事例が無く対応経験なし。	○	併設特養の事例などを参考に、情報交換やお見舞いなど対処していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と家族の決断で在宅での看取りを行った。家族の意向、不安と、グループホームで出来ることを話し合い、看取り介護の同意書を交換している。又、状況の変化に応じその都度家族、本人の意向を確認した。職員も全員ミーティングを重ね、夜勤時の不安を取り除くため、併設特養の夜勤者当番看護師の確認をした。	○	看取り介護の指針をつくる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師の配置を含め、準備中である。 職員の総意としては、本人・家族が望めば、馴染みのホームで終末期を過ごして頂きたいと考えてる。	○	看護師の配置 勉強会
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の支援は行っているが、本人に関しては、ケースバイケースで対応している。	○	家族には情報を提供し、本人には住居の選択をはじめ、移動の不安の無いよう、事前訪問、馴染し移動など、利用者の状況に応じて支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年上の方への言葉使いに気をつけている。急いでいると言葉もおろそかになるので落ち着いて言葉掛けするようにしている。個人ファイルは事務所で書くようにしている。個人ファイルの書架は、事務所不在時は施錠している。	○ まだまだ指示的な言葉かけがみられるので、ますます注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝の食事時間、行事やレク活動への参加、外出など本人の意思を聴いて行っている。	○ 何事もしたくない人の、本当の思いにたどり着きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の落ち着かれる方法で過ごしていただいている。家事をしてないと不安になる方。他の人と歌を唄っている時は落ち着く方、みんなと一緒に過ごすのは嫌いな方。等一応一日の流れはあるが、好きに過ごしていただいている。	○ これからも、利用者本位に、一人ひとりのペースで過ごしていただくよう支援する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝洗顔できない方には、声かけ顔拭きなど支援している。整髪、ひげ剃りについては一部介助にて行っている。同じ物を着続けないように声かけをする。希望のある方には在宅時の美容院へお連れしている。	○ 利用者の要望を聞いて、出来るおしゃれを広げていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け、献立の希望など、利用者と職員とで一緒にやっている。(食事作りをみて楽しめる方も入る)	○ 嗜好調査や、思い出の食べ物、郷土料理など発掘して、より楽しめる食事を演出していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近所の店に買い物へ行ったり、移動販売など好きな物を買ったりしている。本人の希望により家族が持ち込んでいる方もおられる。ビール、お酒は準備してあり状況や希望に応じて提供している。現在の所喫煙者はいない。	○ 不十分な分は補って支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の都度排泄表に書き込んでいる。開所時おむつ使用1名、リハビリパンツ使用3名であったが、現在リハビリパンツ常時使用1名になっている。氏についても暖かくなれば昼間は布パンツに切り替える予定である。	○	排泄自立していた方が、認知症の進行に伴い、夜間の失禁がみられるようになってきているので、誘導時間、間隔等について取り組み中である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特別な行事が無い限り、午後毎日入浴の支援をしている。拒否の多かった方もスムーズに入浴していただけるようになり、入浴時は1対1でゆっくり関わることが出来、思わぬ話が聞けることもある。開所時は、夜間の入浴も支援していた。入浴時間・湯温については健康に支障のない範囲で個人の好みに応じている。	○	入浴は清潔と共に、体の状況がよく見えるので健康観察の機会でもある。 在宅からの新規入居者の場合、希望があれば暫くは夜間の入浴も考慮したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の温度の調整。冷え性の人に湯たんぽなどの準備をし、それぞれの習慣に従って、就寝・起床していただく。夜間は静かな環境を考慮し照明も必要分だけに抑える。昼間の休憩には和室を使うこともある。	○	心配事があり、なかなか寝付けない人がいる。 昼間の支援を通して、夜間の安眠を導入できるようにしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人から昔の仕事や趣味の情報をもらい、グループホームの中で役割を持って生活していただいている。 例 調理師、山菜採り、洗濯の始末、歌、踊り、行事での挨拶、しめ縄作り、家庭菜園の世話 全員への支援には至っていない。	○	「リハビリとかしても意味はねえ」と言われるA氏への取り組みが出来ていない。 わら草履づくり、魚焼きなどしていただいているが、本人の本当にやりたいことに到達出来るようにがんばりたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る人は自室で現金を管理している。(2名) 他の方は、外出時1000円程度のお小遣いをもってもらい気に入った物を買っている。	○	次第に自分で使うことに興味を失ったり、なくすことを心配して不安になる方もいられるので、今後の検討課題である。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地の中にあるので、天気の良い日は、極力外気浴散歩を心がけている。 所在が確認出来ればひとりでの散歩もある。 家庭菜園や花壇の世話など好きな人が職員と一緒にしている。	○	気候を考慮しながら、出来るだけ戸外で過ごしていただく様支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	観劇や音楽会など、家族やボランティアの支援を受けて実施している。 馴染みの公園や花火見物など出かけている。 季節の名所に出かけている。	○	担当者による個別支援を計画している。利用者の行きたいところ、やりたいことを聴いて、1体1での対応をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みの支援。 家族と話したいとの希望があれば、ダイヤルする。 年賀状をつくり、家族に出した。	○	電話の要望があれば、在宅時を見計らって電話する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員が親しみを持って挨拶する。家族・地区老人会の方、近所の方の訪問があり、ゆっくり時間を過ごしていただく様になっている。 自室やコーナーでのプライベート空間作り。お茶の時間には、他の利用者さんと一緒に談笑する場を設定する。	○	家族の方々が、孫やひ孫も同伴して遊びに来て下さり、「ここに来るとほっとする」と行って下さる。この雰囲気壊さないように「ばあちゃんち」「じいちゃん家」であり続けるよう努力したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修で身体拘束について研修をうけている。 安全の為にベッド柵についてもとことん話し合い、家族の了解を得て転落防止のため必要な期間のみ夜間使用した。1週間でナースコールの使用が出来るようになったので、外した。	○	長時間の車椅子使用も身体拘束になるという認識を全員で持ち、移動時以外は、ソファや椅子に移乗していただく様徹底する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室も原則施錠していません。お一人徘徊の頻繁な方がいて健脚なので、その方の居室のみ15センチ解放限定のストッパーを使用しています。	○	安全に留意しながら、鍵を掛けない今の支援を続ける。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員の所在を常に確認するようにしている。特に不安のある方については、シフトを決めて確認している。 また、隣接の特養に利用者情報を提供し、協力していただいている。	○	勤務シフトの中で、全職員が常に利用者の状況を把握しておく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為をされる方はいない。 危険な薬品は洗濯室・浴室に集めて保管している。 自傷行為のある方がいて、ストッキングを首に巻いたり、写真立てのガラスでうでを傷つけたりがあった。	○	利用者の状況の変化を敏感にとらえ、物品の管理については、その都度対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒予防・誤飲予防について園内研修で取り組んでいる。 避難訓練を実行している。 一人歩きの危険な人の情報を特養にも配布している。	○	飲み忘れなどがあるので、服薬支援の徹底をはかる。 一行為一声かけなど、確認注意するよう心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法研修会参加	○	法人で行う研修会への参加 ミーティング時の演習
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者を伴っての避難訓練1回実施 夜間呼集訓練1回実施	○	避難訓練の定期的実施
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に、転倒や骨折、誤飲などについて説明し、出来る限りの安全に配慮するが、自由に生活していただく事リスクについては了解していただいている。	○	夜勤時2件の転倒骨折があり、一人夜勤の見守りに課題がのこっている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや健康観察。 変化について朝のミーティングで情報共有。 異常があれば特養の看護師に連絡・相談、必要に応じて受診 ワーカー日誌・個人ケア記録(ワーカー日誌は必読、要チェック)	○	利用者と向き合って小さな変化を見逃さない。 記録し、伝え、前の勤務からの変化を必ずチェックする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指示された薬の服薬については、飲み忘れなど無いよう職員が介助又は手に出して確認するようにしている。 薬の目的、副作用については全員が理解しているとはいえない。	○	薬手帳などを通して、服用している薬の目的・副作用についての学習会をする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自家菜園などの野菜を中心とした食事を提供している。 排便を促す体操、散歩を取り入れている。 牛乳やヨーグルトの摂取、水分補給に積極的に取り組んでいる。 排便チェック表により個人のリズムをつかむ努力をしている。	○	トイレ自立されている方の排便チェックが完璧には行えていない。 朝のバイタルの時本人確認しているが、実態と違っていることもあるので苦慮している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ・援助・介助 歯科衛生士の訪問 歯科受診の支援	○	食後の歯磨き・支援と確認

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士の献立を参考に、栄養バランスを考慮しながら野菜中心の食事を提供している。主食の量や柔らかさ、形態については個人に応じて対応している。 水分についてはこまめに記録し摂取量の確保を目指している。	○	昔の習慣で過食の人がいて、体重の増加に苦慮している。 水分摂取の極端に少ない人への対応、水ゼリーという提案があり検討していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防注射を利用者・職員全員接種。罹患中の職員の出勤停止。 ノロウイルスに対しての緊急時対応研修。消毒液の準備。ホールの除菌加湿。手洗いの実行。外来者の消毒・マスクの励行	○	体を洗った後のタオルの消毒(オスバン液使用) 洗剤も消毒効果のあるローパス洗剤を使用 疥癬は入浴時の皮膚観察の徹底。 肝炎やMRSAに関しては、キャリアの人の受け入れ時に研修していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理済みの食材は半日後廃棄。 フキン、まな板は毎日煮沸消毒・ハイター漂白している。 食材は地産地消を心がけ、米、味噌、椎茸など地元で購入。また畑で栽培している。 その他はグリーンコープの無添加食品を選んでいる。	○	清潔と安全に心がけていく。 常に職員の意識を高めて行くようにする。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに鼻を植える。 甕に季節の花生ける。 周りに家庭菜園があり、広縁がある。 引き戸でガラス張りである。	○	玄関周りの季節らしい工夫を続ける。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に地元材をふんだんに使ってあり、木の香りに包まれている。又居室や和室には障子を使っていて、昔の暮らしを思い出させる。 トイレは、小便器を用意し、なじんだ排泄が出来るように配慮した。照明は暖色系で落ち着いた雰囲気になっている。 トイレ、洗面所に季節の花を飾ったり、行事の写真を飾っている。	○	季節の写真や絵をかざる。 飾りすぎない普通の住宅の雰囲気を維持する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	北側に2箇所小さな空間があり、一人や少人数で過ごせる。 又、玄関を挟んで談話室があり、独立した空間となっている。	○	空間を利用者が思いのままに使えるような雰囲気の醸成。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室のレイアウトは家族にいただいた。ベッド以外は個人の持ち物であり、一人ずつ趣が異なっている。	○	その人らしさを出すために、担当が利用者と共に生活感のある居室を作っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝食時、居室のガラス戸を開け、換気をはかっている。エアコンの調整は、例外を除いて職員がこまめに行っている。空気洗浄や湿度にも留意している。トイレは24時間換気をしているので、こもった臭いはない。廊下に開閉式の排煙装置がある。	○	体調や、気温に応じて適切な空調に努める。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがつけてある。玄関では、外出時立ち上がりやすいようにポールが立ててある。洗面所の鏡が利用者の目線に合わせてある。	○	広いトイレに手すりが無い。 木造なので、軋んで戸が開きにくくなっている。 今後改善していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入浴の着替えの準備など、個人の能力に合わせて支援している。混乱するポイントの見極めを焦点情報で集めている。取りかかったばかりでまだ、暗中模索である。	○	1年を経て、利用者も自分の殻を脱ぎ始め今までと違った姿や言動がある。 又認知の進行により、今まで出来ていたことが出来なくなり、悩んでいる方もいる。 どこまでの支援、どこからの支援が必要か日々突き当たっている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や、家庭菜園があり、水やり、草取り、収穫を楽しんでいる。出来ない人も広縁に出て、収穫物を楽しみ、食事に利用している。日光浴や散歩が出来る。梅、桜、藤、珊瑚樹、紅葉と一年を通じて楽しめる樹木があり、梅ちぎり、かぼすちぎり等が楽し	○	恵まれた自然をいかして、土筆とり、蕨とり、芋掘りなど収穫をみんなで楽しむ。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 家庭菜園をつくり、それぞれの状態に応じて、畑仕事をしたり、収穫に参加したり、眺めたり、調理したり、食べたりと、自然・季節感とのふれあいができる。また、果樹の取り入れや保存食作りにもみんなで取り組み、馴染みの生活を続ける事を大事にしている。
- 緑に囲まれて敷地が広いので、安全に・気軽に散歩が楽しめる。
- 全員布パンツで、トイレでの排泄を目標に、段階を踏みながら、1人ひとりきめ細やかに対応し、成果が得られつつある。
- 個人を尊重し、お一人おひとりのカラーを引き出していけるよう努力している。